

豊洲移転認可に抗議

共産党都議団が宣伝

東京・新宿 「食の安全を守ろう」



農林水産省が東京都築地市場（中央区）の豊洲新市場（江東区、東京ガス工場跡地）への移転を認可したのに対して、日本共産党都議団（曽根はじめ団長、18人）は11日、JR新宿駅西口で「深刻な土壌汚染が残る、市場業者の合意もない移転認可は許されない。食の安全・安心を守るため、移転中止の世論を上げよう」と訴えました。

都議が勢ぞろいして、魚のかぶり物をしながら「豊洲への移転中止！ 築地を守る」の横断幕を掲げ、代わる代わるマイクを握り訴えると、通りかかった人たちが次々ビラを受け取って行きました。

大山とも子幹事長は、小池百合子知事が「築地を守る」の公約を投げ捨て、豊洲新市場の「安全宣言」を行ったことを「土壌汚染対策後も環境基準の170倍のベンゼンや、猛毒のシアンなど汚染が続く実態は全く変わっていない」と批判。

水産仲卸業者や、築地で買い出しする鮮魚店、料理人など多くの人が「豊洲市場では食の安全を守れない」と

移転反対の声をあげ続け、会予定の都議会定例会でいること、新市場でも移転撤回を求め頑張り、築地を守る世論を上げよう」と呼びかけました。